



最高の思い出になりました！修学旅行！

「小学校最後の宿泊行事なので、みんなで協力し、最高の思い出を作ろう！！」のテーマのもと、5月24日（水）の湘南の日産車体&自動車工場見学から始まり、26日（金）のディズニーランドまでの2泊3日の修学旅行でしたが、大成功のうちに終わることができました。子どもたちはTPO（時・場所・場合）をわきまえて行動し、特に集合の素早さ、式の時の立派な態度、見学の熱心さなど様々な場所で関わってくださった皆様からお褒めの言葉をいただきました。また、みんな仲が良く、友だちの心を大切にし、一人として寂しい思い、悲しい思いをせずにこの修学旅行を終えることができました。子どもたちにとって、最高の修学旅行になったと確信しています。

この成功を自信にして、本校の最上級生としての今後の取組で生かしてくれることと信じています。なお、今年度は現地から更新をしたのですが、多くの保護者の皆様に学校HPの「6年生のページ」に掲載した修学旅行の記事を読んでいただいたことに心より感謝申し上げます。



2日目のホテルでのバイキングの夕食



ディズニーランドでの記念写真

各学年の校外学習も充実したものになっています！！

1年生は5月9日（火）に市立動物園と遊亀公園に、2年生は5月12日（金）に県立科学館と愛宕山こどもの国に、3年生は5月31日（水）に芸術の森と県立美術館、4年生は5月9日（火）に平瀬浄水場と甲府・峡東クリーンセンターにそれぞれ行ってきました。同日で重なってしまった1年生以外は私も付添として参加できたのですが、いずれの校外学習とも充実した内容で、子どもたちにとって貴重な体験となりました。1年生はモルモットを膝の上に抱いたのははじめ動物との、2年生はサイエンスショーへの参加をはじめ科学との、3年生は岡本太郎作「樹人」のスケッチをはじめ芸術との、4年生は浄水場やゴミ処理場などのライフラインとのそれぞれ出会いがありました。ICTの活用はとても意味のあることだと思いますが、小学生の子どもたちにとって、今回の校外学習のように、実際に自分の目で見て、手で触れて、体全体で感じる事が大切です。

それから、保護者の皆様には美味しいお弁当をはじめ、いろいろ準備をしていただきありがとうございました。なお、5年生は、6月8日（木）にふじさん科学研究所と河口湖フィールドセンターに行ってきます。

教職員の多忙化改善に向けた本校の取り組み！

山梨県教育委員会より、市町村教育委員会と各小中学校に多忙化改善に向けた組織体制づくりと改善計画の作成、その実行などについて指導をいただいています。本校でも、組織と計画を策定し、順次取り組んで参ります。その目的は、次の2点です。

- ① 教職員の多忙化を改善することで、教職員が直接児童と関わる時間を増やし、教育活動の一層の充実を図る
- ② 教職員の多忙化を改善し、教職員の心身の健康の維持改善を推進することで、教育活動の一層の改善を進める。



組織については次の通りです。

- 名称 舞鶴小学校多忙化改善対策委員会
 - 参加者 校長・教頭・教務主任、必要に応じて学年主任や分掌責任者が参加する
- 具体的には、次のことを行います。

① 会議等の効率化

- ・ 職員会議は原則、1時間30分以内で終わるようにし、先生方の授業準備や子どもたちの丸つけ等の時間を確保します
- ・ 校内研究会も可能な限り夏休みに実施するようにし、放課後の子どもに対応できる時間を確保します



② 学校行事の負担軽減

- ・ 学校集会の中の賞状伝達が長引いてしまい、1校時に食い込んでしまうことがあるので、学校集会での児童会と学級役員の認証式以外の賞状伝達は、受賞者へのインタビューを含めて昼のテレビ放送で行い、1校時の授業時間を確保します

③ 校内組織の見直し

- ・ 校内分掌（研究主任や体育主任などの校内での役割）をできる限り主任と副主任を配置し、複数分担制にすることにより一人にかかる負担を軽減します
- ・ 校内分掌ごとの文書のデジタル化（例えば、体育主任の運動会の提案文書がパソコンのファイルになっていて、次年度の主任が最初から入力し直さなくて良いようになっていること）が進んでいるので、主任が替わってもどこにどのファイルがあるのか、わかりやすくします

④ 業務の効率化

- ・ 大型ディスプレイとパソコン、デジタル教科書、実物投影機等をより一層活用し、教員の負担を軽減するとともに、子どもたちにわかりやすい授業にします
- ・ 退勤時間が遅くなってしまい、体調が万全でない状態で子どもの前に立たざるを得ないことがあります。管理職が用意したカレンダーに退勤時刻を記入するなどして、あまりに遅くならないような意識を持つようにします

⑤ 地域人材の活用

- ・ 昨年度より、学校応援団を正式に設立しましたが、教職員に学校応援団に支援してほしいことをアンケート調査し、積極的に支援していただくことで、より良い指導を実現するとともに教員が子どもに向き合う時間を確保します
- ・ せっかく学校応援団にお手伝いいただいても、教員との打ち合わせ時間が多くなりすぎるとそれが負担となってしまうので、簡単な打ち合わせや打ち合わせなしでもできるよう、学校応援団のリーダーを育成し、その方に打ち合わせや指導してもらえるようにします

これ以外にもいくつかの取り組みをしますが、実践しながら改善していき、教職員が子どもに向き合う時間を確保し、健康で子どもたちの前で自然と笑顔が出るよう取り組みます。